

## トルコでの古代遺跡発掘

担当者：紺谷 亮一

私は現在トルコ共和国で、都市文明の起源を探るため、約5000年前のキュルテペ遺跡を発掘しています。ここでは、メソポタミアとは違った都市形成の歴史が見られます。最新の発掘成果を皆さんにご紹介します。



会場 ③3F・2300JB

山陽新聞 2022年2月10日

宮殿跡の下から出土した大型建物跡。キュルテペ最古の遺構であることが分かった



## 紀元前3300年の建物跡

## ノートルダム清心女子大 紺谷教授発見

トルコの古代都市キュルテペの起源を探ろうと、同国で調査を続けるノートルダム清心女子大の紺谷亮一教授(58)＝西アジア考古学。昨夏の発掘では新たに大型の建物跡を発見。出土遺物の年代測定を日本で行ったと



紺谷亮一教授

ころ、同遺跡最古となる後期銅石器時代(紀元前3300年ごろ)の建造物だと判明した。キュルテペは直径600m以上に及ぶ円丘状の都市遺跡。トルコ中央部にあり、文明が興ったメソポタミア(イラク)や地中海、黒海沿岸などの結節点に当たる

## トルコ中央部 キュルテペ最古の遺構

ため、同遺跡の起源は「中東一帯の都市文明の成立過程を解明する大きな手がかりになる」という。

昨夏の調査では、遺跡中央に残る中期青銅器時代(同2千年ごろ)の宮殿跡のさらに下を発掘し、大規模な建物跡を確認した。残る壁跡などから建物は複雑な構造をしており、「公共施設であった可能性が高い」と紺谷教授。

土器片や炭化物も見つかり、日本に持ち帰って放射性炭素年代測定を実施。同遺跡で従来最古だった紀元前3千年ごろの建物跡を、さらに300年以上さかのぼることが分かった。

メソポタミア最古の都市国家ウルクが繁栄した紀元前3500年と近い時期に、キュルテペも形成されたことになる。今夏は周辺部に拡大して発掘予定で「農耕地帯ではないトルコ中央部でなぜ都市が発展できたのか。都市文明が成立する背景を突き止めたい」と意気込む。(小谷章浩)